

前に遣るワ』

『へエ……あの折角だすけど、モウ頂いたも同然だす……』

『何で取らんのか』

『甘き物喰はず人には油断すな云ひまつさかいなア、貴方私いに油断さしといて生き膽奪りなはると違ひまつか』

『阿呆云へ。貴様等の生き膽が何に効くかい。心配せんと取つとけ。其替り一寸丈け云ふ事諾いてや實は今日中筋の大梅へ行つてナ、藝妓幫間を仰山連れて、難波の一方亭へ遊びに往く意りで、其の約束が定めたアるのか、して見ると俺しが往ても往かいでも、費るだけのものはもうチャン附いて仕舞ふて有る、まア夫んな事は構めへんけど、俺しが往て遣らんと先へ往てる連中が、佛の無いお堂の守りしてる様になりよる。なア、左様や依てに一寸此處を出して呉れたら、戻りには貴様の好きな笹巻の鮓を仰山土産に持て歸つたる。又籤入の時にはお父つあんやお母んに佳え物持たして歸なす依て、何ふや鳥渡出して呉れへんか』

『そやけど貴方が居てなはれへんのに、私一人こんな處で割木持て佇てたかて、矢つ張り佛さんの無いお堂の守り見たいに成ますがナ』

『ア、夫りや俺しに任しとき、それ此處へ斯ふ云ふ風に寝間を敷くね。それから此筈を斯ふ臥さし

といてナ枕をさして蒲團を被せとくのや、そうれ見イ。俺しが臥てる様に見えよがナ。若しも番頭が出て來たら、若旦那は能ふ眠んでムりますと云ふのや。此處を鳥渡開けて見せても、彼の通り身替りが持らえたアるさかい、滅多に解らへん。其意りで貴様番して、呉れ』

『へエ。そんなら若旦那、成る丈け早ふ歸つとくなはれや』

『心配すな、直つき歸つて來る。』

『鮓忘れんと置いとくなはれや』

『諾しや〜』

『アと出てお仕舞ひになりました。此方はお店の番頭さん』

『コレ龜吉』

『へエ』

『ア、若狭屋はんのお葬式は慥か二時やつたと思ふ。最ふ彼れ是れ二時や、今日は旦那様が頭痛がすると云ふて息むで御座る、俺しが代りにお送り申さにな成らぬ、呆乎して居たがお前一寸一走り行つて、葬式は未だ出相に無いか何うや、見て來ましょ。今にも出る様なら仕度をせにや成らぬ。チャツと見て來ふ』

『へー。……へエ往て參じました、もう出掛かつとります、今入口で皆出やはるお方の順番呼ではり